

1 4	岡 崎	美川中学校	ヤマモト モエ	
			氏名	山本 萌愛

分科会番号	1 9
-------	-----

分科会名	読書・学校図書館
------	----------

1 研究テーマ

図書資料を活用した『論語』の学習 ～人生で大切にしたい言葉を選ぶ学習を通して～

2 研究概要

(1) テーマ設定の理由

生徒はこれまで、文章中の語句や表現に着目して書き手の考えを読み取り、自分の考えを交流する学習を積み重ねてきた。しかし、読み取った内容を自分自身の生き方や価値観と結び付けて考える経験は十分ではなく、学びを自分事として捉えることに課題が見られる。

『論語』には現代にも通じる考え方や生き方の指針となる言葉が多く、生徒が自らの生活や将来について考えるよい機会となる。また、『論語』は現代語訳や解説書によって表現や解釈が異なり、資料を読み比べることで、理解を深めることができる教材でもある。

そこで本題材では、教科書教材に加え、岡崎市立中央図書館から借りた『論語』に関する資料を活用しながら学習を進めることとした。生徒が複数の資料に触れながら情報を集め、自分の心に残る言葉や共感できる考え方を見付け、「これからの人生で大切にしたい言葉」を主体的に選択できるようにしたいと考えた。

このように、多様な資料との出会いを通して学びを深めることで、『論語』の言葉を過去の教えとしてではなく、自分自身の生き方と結び付けて捉えられる生徒を育てたいと考え、今回の研究テーマを設定した。

(2) 仮説と手だて

目指す生徒像

『論語』に示された考え方を、現代を生きる自分自身の生活や将来と関連付けながら捉える生徒。

仮説①

『論語』に関する図書資料を活用して多様な章句や解釈に触れることで、生徒は様々な価値観に出会い、自分がこれからの人生で大切にしたい言葉を主体的に選ぶことができるだろう。

仮説①に対する手立て

I 『論語』に関する図書資料を複数用意し、読み比べる。

→教科書だけでなく、現代語訳や解説書、名言集など複数の図書資料を活用することで、生徒が多くの章句や解釈に触れ、自分にとって印象に残る言葉が見つけられるようにする。図書資料については、岡崎市立中央図書館に申請して40冊程度用意する。また、同じ章句でも資料ごとの表現や捉え方の違いを比べることで、章句の意味を多面的に捉えられるようにする。

II 図書資料から「気になる章句」を集める活動を設定する。

→図書資料を読みながら、心に残った章句や気になった言葉を複数選ぶ。最初から視点を絞って選ぶのではなく、まずは「気になる」という視点で選ぶことで、自分の感覚や価値観をもとにのちの自分と関連付けて章句を選択するための土台をつくる。

仮説②

『論語』の章句を選ぶ際に、具体的な視点や目的を示すことで、生徒は論語の内容を自分の経験と関連付けながら捉え、人生で大切にしたい言葉を、根拠をもって選ぶことができるだろう。

仮説②に対する手立て

III 人生で大切にしたい『論語』を選ぶ際に、自分自身と関連付けて考えられるように以下のような視点を示す。

視点①「自分の生活のどんな場面と関係しているか」

視点②「これからの自分にとって、役に立つところがあるか」

視点③「自分のどんなところ（長所や短所など）と結びつくか」

→このような視点を示すことで、複数の章句を単に意味で比べるのではなく、自分との関わりから捉えられるようにする。

IV 選んだ『論語』の章句を使って、1年後の自分へ手紙を書く。

→1年後の自分へ向けた手紙を書くという目的を設定することで、生徒が「今だけの選択」ではなく、将来の自分へのメッセージとして章句を捉えられるようにする。それにより、授業の活動としてではなく、自分自身にとって本当に大切にしたい『論語』を主体的に選択できるようにする。

抽出生徒 A について

生徒 A は、学習課題に真面目に取り組むことができるが、自分から考えを広げること苦手意識をもっている。これまでの授業においても、文章の構成や内容を理解することは得意であるが、自分の考えをもつ際には、周囲の意見に影響されることが多い印象である。本単元では、図書資料を活用して多くの章句や解釈に触れたり、視点を示したりすることで、自分なりの価値観を基に章句を選び、その理由を自分の生活やこれからの人生と関連付け

て自信をもって説明できるようになることを期待する。

単元計画 【単元名】『論語』に学ぶ、生き方のヒント（4時間完了）

学習課題	学習内容	時間
論語の言葉を、自分の言葉で言いかえてみよう。	・孔子や論語について知る。 ・教科書の章句を読み、自分の言葉で言いかえる。 ・「この言葉をどんな場面で言いそうか」について考える。 ・考えをチームで共有する。	1
今の自分にとって気になる言葉はどれだろう。	・『論語』の有名な章句を複数読み、語句や大まかな意味を確認する。 ・個人で『論語』の様々な章句を読む。 ・気になる章句を選ぶ。	1
これからの人生で大切にしたい『論語』を選ぼう。	・第2時で選んだ章句を見返す。 ・候補の中から「これからの人生で大切にしたい『論語』」を1つ選び、理由を考える。 ・選んだ『論語』の章句と理由をチーム内で紹介し合う。	1
選んだ『論語』をもとに、1年後の自分に手紙を書こう。	・前時までに選んだ「人生で大切にしたい『論語』」と理由を確認する。 ・選んだ『論語』の言葉をもとに、1年後の自分に向けて手紙を書く。 ・生き方のヒントが得られたか振り返る。	1

（3）実践

第1時では、教科書の章句を読む前に、代表的な『論語』の章句をいくつか紹介した。紹介したものは、「故きを温めて新しきを知る」「己の欲せざる所、人に施す勿れ」である。生徒Aは、「故きを温めて新しきを知る」を見て、すぐに「温故知新」という言葉を出していたが、『論語』の章句であることは知らなかった様子であった。そして、これらの言葉が約2500年前の孔子の教えであることを伝えた。生徒からは、「昔の人の言葉だけど、親や先生から言われる言葉と似ている」「そんな昔の言葉が今でも残っているの?」といった声があがった。中には、「こういう名言が他にもいっぱいあるってこと?見てみたい」と『論語』への興味を示す生徒もいた。

手立てⅠ 『論語』に関する図書資料を複数用意し、読み比べる。

第2時では、教科書に加えて『論語』の現代語訳、解説書、名言集などの図書資料を複数準備し、生徒が自由に手に取れるようにした。図書資料については、岡崎市立中央図書館に申請し、40冊ほどの資料を用意してもらった。資料には同じ章句を異なる表現で解説しているものがあり、生徒が読み比べながら活動できる環境を整えた。

生徒は複数の図書資料を読みながら、同じ章句でも資料によって現代語訳や解説に違いがあることに気付いた。例えば、「君子は義に喻り、小人は利に喻る」について、ある資料

では「君子は正義に理解が深いが、小人は利益追求のみに一所懸命になる」、別の資料では「立派な人は正義を大切にするが、小さい人は自分の損得ばかり考える」と説明されていた。生徒はそれぞれの説明を読みながら、「どちらも似ているけれど少し意味が違う」「こっちの説明の方が分かりやすいよ」と話をする姿が見られた。



資料1 図書資料を読み込む生徒

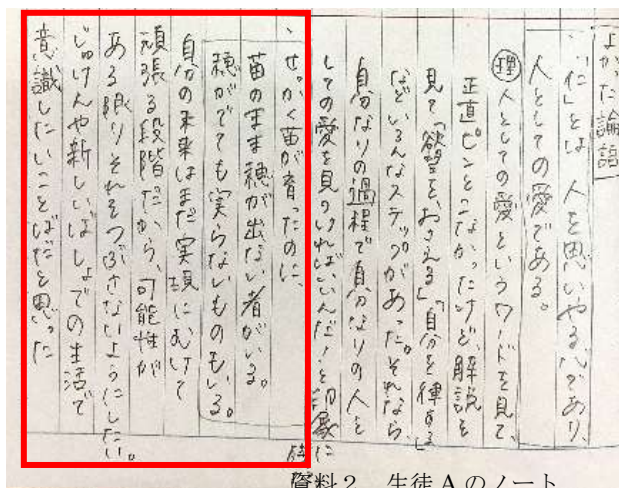
生徒 A は、教科書には掲載されていない章句に関心を示し、図書資料を手に取りながら「こんなカッコいいこと言ってるんだ」と驚いた様子で読み進めていた。また、気になった章句について複数の資料を見比べながら、その意味や解説を確かめようとする姿が見られた。(資料1)

教科書に掲載されている『論語』の章句は4つである。今回、複数の図書資料を活用したことで、教科書だけでは出会えなかった多くの章句に触れることができた。用意していた資料の中には生徒にとっては読み慣れていない厚さの解説書もあったため、最初は多くの生徒がその解説書の存在に圧倒されていたが、1つ読み始めると『論語』の章句に興味をもち、次々とページをめくっていく姿や、「そっちも読ませて」と級友と資料を交換しながら読む様子が見られた。図書資料を活用したことで、生徒は教科書だけでは出会えない多様な章句や解釈に触れ、自ら進んで資料を活用しながら学びを広げることができたと考え

手立てⅡ 図書資料から「気になる章句」を集める活動を設定する。

また、第2時で図書資料を読みながら、カッコいいと思った言葉や、解説に共感できた言葉など、自分が気になった章句はノートに書いておくように伝えた。ここでいう「気になる」とは、章句の意味を深く理解したものに限らず、「何となく心に残った」「もっと意味を知りたいと思った」といった、第一印象によるものも含めることとした。これにより、生徒が難しく考え過ぎることなく、多様な章句に触れながら自分が心を動かされた言葉を選べるようにした。

生徒 A は、教科書には掲載されていない「苗にして秀でざる者あり、秀でて実らざる者あり」という章句をノートに記録し、さらに他の資料で同じ章句を見付けると、「こっちは詳しく書いてある」と同じチームの生徒と話しながら解説を読み比べていた。その後のノートには、「自分の未来はまだ実現に向けて頑張る段階だから、可能性がある限りそれをつぶさないようにした



資料2 生徒Aのノート

い。受験や新しい場所での生活で意識したい言葉だと思った。」と、選んだ理由を記録していた。(資料2) このことから、生徒Aは単に章句を収集するだけでなく、解説を比較しながらその章句の価値を捉えようとしていたことが分かる。

手立てⅢ 人生で大切にしたい『論語』を選ぶ際に、自分自身と関連付けて考えられるような視点を示す。

第3時では、第2時で選んだ自分の気になる『論語』の章句の中から、「人生で大切にしたい『論語』」を1つ選んだ。その際に、自分自身の生活やこれからの人生、性格などと結び付けて選ぶことができるよう、「自分の生活のどんな場面と関係しているか」「これからの自分にとって、役に立つところがあるか」「自分のどんなところ(長所や短所など)と結びつくか」という3つの視点を提示し、生徒が章句を選ぶときの手がかりとなるようにした。(資料3) さらに、第4時に本時で選んだ『論語』を1年後の自分へ送るための手紙を書くことを告知した。



資料3 視点を示した板書

生徒Aは、活動の当初は第2時で自身が選んだ気になった章句を眺めながら、「どちらも同じように大切だと思う」と言って、悩んでいた。しかし、提示した視点を意識して考えることで、自分との関わりが強い章句とそうでない章句を比較しながら検討することができていた。

生徒Aは最終的に「苗にして秀でざる者あり、秀でて実らざる者あり」を、人生で大切にしたい『論語』として選んだ。チームで交流する際にも、「何かを始める前から、自分には無理かもしれない、と決めつけてしまう私自身のことを言っているようで、忘れてはいけない言葉だと思った」と、選んだ理由を自分の言葉で説明することができた。「決めつけてしまう私自身」という言葉から、生徒Aは『論語』の章句を単なる教えとして捉えるのではなく、自分自身の性格や今後の生き方と関連付けながら考えることができたといえる。

手立てⅣ 選んだ『論語』の章句を使って、1年後の自分へ手紙を書く。

第4時では、第3時で選んだ「人生で大切にしたい『論語』」の章句を用いて、1年後の自分へ向けた手紙を書く活動を行った。(資料4) これは、単に章句を選んで終わるのではなく、その言葉をこれからの自分の生き方と結び付けて考えられるようにするためである。生徒には、「1年後、自分はどのような姿になっていたいか」「そのために選んだ『論語』をどのように生かしていきたいか」といった視点を示しながら手紙を書くよう促した。



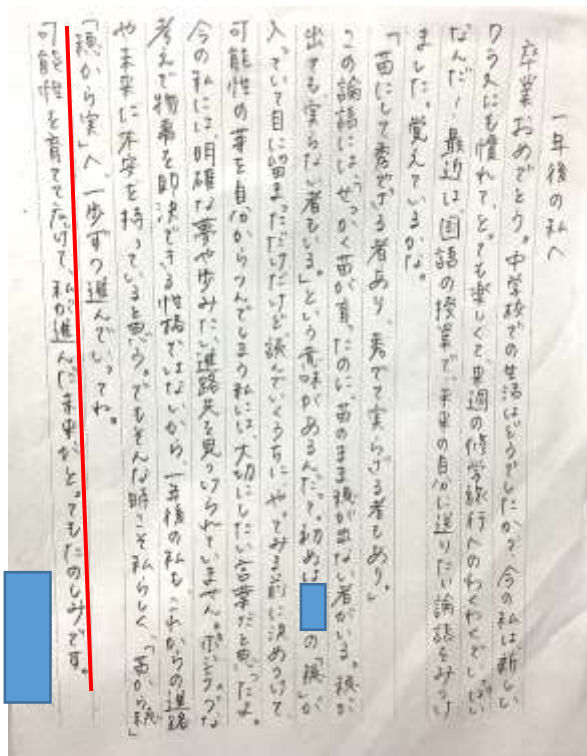
資料4 手紙を書く生徒

生徒Aは、第3時で選んだ「苗にして秀でざる者あり、秀でて実らざる者あり」の章句

について、「何事もやってみる前から諦めず、自分の可能性を大切に育てていきたい」という思いを手紙に記していた。また、「可能性を育てて広げて、私が進んだ未来がとっても楽しみです」と未来の自分への期待を書く姿も見られた。(資料5)

他の生徒からも、「やりたくないけどやらないといけない時や、挫折しそうな時にこの言葉を思い出して頑張りたい」「この論語は一生使えます。どんな時でも周りを見て、元気に過ごしてください」といった記述が見られた。手紙を書く活動を取り入れたことで、生徒は『論語』の章句を昔の人の教えとして捉えるだけで終わらず、自分自身の生活や将来と関連付けながら考えることができた。さらに、1年後の自分へ伝える言葉として見つめ直すことで、自分にとって本当に大切にしたい『論語』を主体的に選択することにつながったと考える。

資料5 生徒Aの手紙



(4) 成果と課題

仮説①については、『論語』に関する図書資料を複数活用したことで、生徒は教科書だけでは出会えない多くの章句や解釈に触れることができた。特に生徒Aについては、同じ章句の異なる解説を読み比べたりする姿も見られ、自ら進んで資料を活用しながら学びを広げることができた。このことから、図書資料の活用は、生徒が様々な価値観に触れ、主体的に言葉を選択する上で有効であったと考える。

仮説②については、自分の生活や将来との関連を考えるための視点を示したことに加え、1年後の自分へ手紙を書く活動を設定したことで、生徒は『論語』の章句を自分事として捉えることができた。特に生徒Aは、当初は章句を1つ選ぶことに悩んでいたが、「苗にして秀でざる者あり、秀でて実らざる者あり」を自身の性格や将来への思いと結び付けて選択することができた。手紙の中でも未来の自分への願いを具体的に表現していた。他の生徒からも、『論語』の言葉を今後の生活の中で生かしたいという記述が見られたことから、章句を単なる知識としてではなく、自らの生き方と結び付けて捉えることにつながったと考える。

成果があった一方で、生徒によって図書資料の活用の仕方に差が見られたことは課題であると感じた。複数の資料を読み比べながら考えを深める生徒の姿は多くあったが、1冊だけを読んで活動を進める生徒も複数見られた。今後は、それぞれの資料の特徴に目を向けて、読み比べたことを交流したりする活動を充実させることで、図書資料をより効果的に活用できるようにしていきたい。